

# 全佛通信

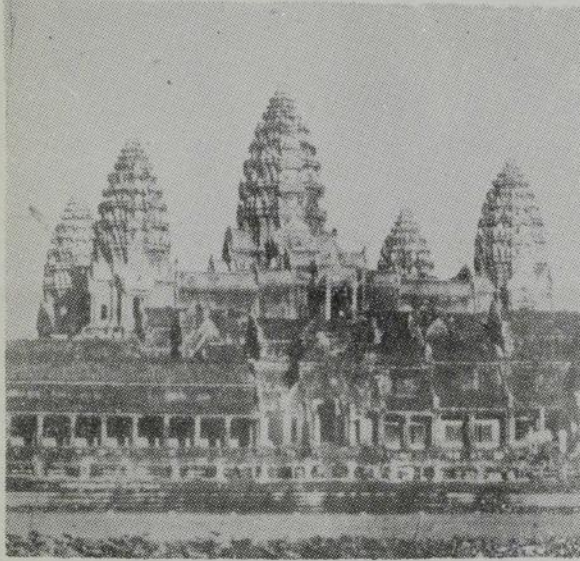
十一月号

発行所  
川田法人  
全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ木(本願寺内)  
電話 500 〇三三三  
振替東京 三三三〇〇  
発行人 栗本俊道  
編集者 別所弘因  
印刷所 ルンビニ社

## 主張 第六回世界仏教徒会議に望む

現下の国際情勢は東西兩陣營の激突で全く緊迫した戦機をはらんでいる。いや、戦禍は既に人類が蒙っているのだ。ソ連の狂気じみ

に対するその影響は、罪無き子孫にまで、はかり知れない災禍をもたらえるであろう。このことは、今日の科学が証明し警告しているが



—世界的に有名なアンコールワット—

た核実験の連続で放射性物質は大気を汚染し、今後永年に亘って生命を脅かすばかりでなく、遺伝子

、此の危険からのがれる術は未だ発見されない。だから全人類はただ恐怖のどん底に喘いでいるのだ

けである。世界を恐怖におとし入れることがソ連の目的の一つである以上、いくら実験中止を訴えても無駄であろう。かえって実験の心理的効果があつたとして、ほくそえんでいるかも知れぬ。人間もここまで冷酷になれば恐ろしいものである。

アメリカが対抗上核実験に本腰を入れるとゆうことにでもなれば、核戦争をやらなくても、その災害は、実戦の場合とかわらなくなる。それどころではない、兩陣營の核兵器競争はとどまる所の無い連鎖反応を続けるであろう。そうしなければ手がつけられなくなる。誠に恐ろしいことである。

一体世界をこんな野蛮極まる状態におとし入れたそもその原動力はなんであらうか。それは唯物論の人生観と、病的個人主義である。唯物論の人生観は宗教を否定し、人道を無視する。病的個人主義は自分中心の我見に陥ちり、相手を自分の便宜のように取り扱いかい、真の同盟愛を生みはしない。このような考え方が現在の世界を大きく動かしている以上、本當の世界平和があらう筈はない。はじめから、相手を疑い、相手を信用しないで交渉するのだから、話しあいでも紛争を解決つけることは出来ない。一時の妥協は出来ても、心からの調和はあり得ない。ここに現代の行き詰りがあるのだ。かつて、この行き詰りを打開する為めには、その原動力となつてい

る唯物論の人生観と、自己中心の病的個人主義とを清算しなければならぬ。

とは云つても、これは、仲々、六つ敷い仕事である。特にソ連圏をも含めて、ヨーロッパ、アメリカの人々にとつては難中の難事であると思う。これ等の考えは、ル

ネツサンス以後現代に至るまで、永きに亘つて発展して来た思想であるからだ。

ルネツサンスの特徴は所謂自我の発見であり、個人主義はその中から発達し、初期に於いては美しい文化の華を咲かせたが、次第に病氣となり、いつしか自己中心の考えに転落した。これが固体の形をとつて現はれて階級エゴイズムとなり(共産主義)、民族エゴイズム(例えばゲルマン民族至上主義)、組合エゴイズム(労使闘争)、さては、国家を単位とした自己中心主義、即ち国家エゴイズム等と変化して来た。個人が核実験をし

たら世間は殺人鬼と叫び直ちに措置するであらう。しかるに国家が置れば断乎として押し通せる現世相は国家個人主義横行の時代と云はざるを得まい。

また一方に於いては、ルネツサンスをエポックとして、自然科学は、いちぢるしく発達したが、此れと歩調を同じくして唯物論的考

えが次第に学問的に体系づけられ、遂に十九世紀ドイツ唯物論哲学を大成させるに至つた。

この個人主義唯物主義的傾向は互いに影響し合つて今日の一般的思想の基盤をつくりあげてい

れこそ、現代の混乱を救い、人類に真の平和を齎らす指導理念である。最も科学的にして、最も新しい指導理念、この仏教によつて世界は救われるであらう。

今回開催されるカンボジアに於ける世界仏教徒会議は、東西紛争、世界混乱を諦観し、現代人類の悩み、國際の悩みを救う仏陀の御教を世界に宣明すべき使命があると思ふ。

かつて、仏教が殆んど東南亜全域に流布せられ、数世紀に亘つて和平調和の仏教国をつくり、お互に渡航往来、文化を交流した時代を想い起す必要がある。当時は、現在パリーテキスト仏教圏のみならず、イラン、パキスタン、アフガニスタン、カンジュミール等を含め、広く東南亜全域に、かつては、大乘仏教が栄えたことがあり、その史実は中国仏教史伝に記載せられてはばかりでなし、発掘品からも証明出来るのである。

各種各様の仏教が行われ、仏教文化の花園を誇つていた。大陸、半島、海洋に仏教が繁栄した當時を回顧すれば、現在各地域の仏教徒は大いに反省脱皮して世界的使命に向つて互に協調することが出来る。時代と遊離したり、形式に随して教化力を失つたり、人類の苦悩、世界の混乱に眼を覆い、徒らに伽藍に情眼をむさぼるが如きことは許されない。

各民族各地域即ちの仏教形態をとりながら、基本的には仏教本来の精神に皈一し、広く提携協力して、仏教者の現代の使命を果たすべく努力しなければならぬ。

(全仏理事 松本徳明)

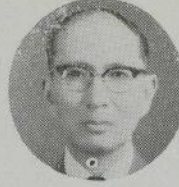
第六回世界仏教徒会議  
日本仏教代表團



秋山 佑雅 六五  
真言宗智山派  
金剛寺住職



安藤 寿雄 六六  
真宗大谷派  
同宗会議員  
勝楽寺住職



麻布 照海 五四  
東京仏教団  
同常務理事



井坂 信興 四二  
真言宗豊山派  
長楽寺住職



山本 杉 五八  
参議院議員  
全日本仏教婦  
人連盟理事長



石川 存静 五四  
日蓮宗  
全日本仏教会  
国際局長



稲岡 覚順 五五  
埼玉県仏教会  
同常務理事



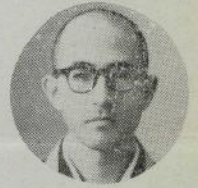
小野 一成 廿九  
日本仏教鑽仰  
会  
東京都立教育  
研究所員



加藤 竜雲 五七  
曹洞宗  
見性寺住職



鎌田 良昭 廿八  
全日本仏教会  
同国際局主事



阪口 祐瑞 四一  
高野山真言宗  
同宗神奈川県  
宗務支所長



高橋 隆天 卅五  
真言宗智山派  
神奈川県仏教  
会長



中村 了権 二三  
京都府仏教会  
中外日報記者



中山 理々 六六  
日本仏教鑽仰  
会理事長  
全日本仏教会  
理事



丹羽 廉芳 五六  
曹洞宗  
永平寺東京別  
院監院



橋本 照松 卅六  
千葉県仏教会  
大本山成田山  
新勝寺法務課  
勤務



橋本 芳契 五三  
梵人会  
金沢大学助教



長谷川 俊明 七一  
浄土真宗本願  
寺派  
あそか病院長



平等 通昭 五八  
神奈川県仏教  
会  
東京仏教学院  
講師



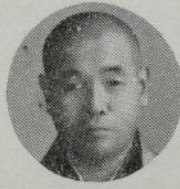
松浦 英文 五四  
曹洞宗  
大本山総持寺  
布教部長



間野 敬重 六〇  
大阪府仏教会  
々々長  
全日本仏教会  
理事



山口 貴美子 五八  
真言宗豊山派  
同宗仏教婦人  
会長



山本 宗源 五九  
曹洞宗東京宗  
務所長  
全日本仏教会  
評議員

第六回世界仏教徒会議

カンボジア大会日程決まる

前号掲載日程中、多少の変更があつたので、再度掲載致します。なお、現地に於て更に日程の変更あるかも知れず、予め御承知置きを願います。  
全仏では各宗派各団体より推薦された代表二十三名を詮衡委員会で一応内定していたが、全仏が当初より予定していたのに反し、その後カンボジア国より正式代表三名の通告があり、国際局としては、急遽人員の点で、他の代表全員参加出来る様、極力接衝した。結果カンボジア国より全員入国歓迎の旨の通告に按じ、直ちに外貨申請の手続が取られた。近時頓に国策上外貨の引しめを行つており、苦慮されたが、幸い国際局の奔走に依り全員の外貨も獲得された。かくて十月十六日常務理事会に於て最終詮衡会議を開き全員を仏教徒代表として派遣する事に決定した。本会は最後迄全員派遣の線で寧日なく諸機関との折衝を続行した。又この間、数次に亘り詮衡会議が開かれた。代表者は、何れも学識経験人格に於て代表としてふさわしい立派な

人物である事と信する。御承知の通り、最近カンボジアとタイ両国間  
に於ては、国交断絶の状況にある。顧みて日本仏教の現況は、仏教輕  
視の風潮すらあり、より一層仏教徒の教化、奮起を望む秋、選ばれて  
代表として会議のそむ事は、誠に意義深く且つ重責を荷うものであ  
り、全幅の努力と奮斗をせられ、無事任務を遂行せらるる様祈るのみ  
である。全日本仏教徒の代表として名実共にふさわしい言動をとられ  
ん事を望み、心より壯途を祝福致すものであります。

昭和卅六年十一月十二日 (日)

午前 七時 大会開幕のアナウンスがラジオ、鐘等で報せられる。

午前 八時 特別来賓、外国代表、大会々々、首相、閣僚入場

午後 八時三十分より 仏教賛歌、故国王へ目録、開会の辞、各国メソセージ朗読、終つて来賓退場

午後 四時 外国代表着席、宗教大臣、仏教会長、WFB本部会長の演説、大会委員の選出

午後 八時 十時三十分 宗教大臣主催晩餐会

午後 十時三十分 十時三十分 十時三十分

午後 十一時 十五時 (水) 十五時 (水) 十五時 (水)

午後 十六日 (木) 十六日 (木) 十六日 (木)

午後 十七日 (金) 十七日 (金) 十七日 (金)

午後 十八日 (土) 十八日 (土) 十八日 (土)

午後 十九日 (日) 十九日 (日) 十九日 (日)

午後 二十日 (月) 二十日 (月) 二十日 (月)

午後 二十一日 (火) 二十一日 (火) 二十一日 (火)

午後 二十二日 (水) 二十二日 (水) 二十二日 (水)

午後 二十三日 (木) 二十三日 (木) 二十三日 (木)

午後 二十四日 (金) 二十四日 (金) 二十四日 (金)

午後 二十五日 (土) 二十五日 (土) 二十五日 (土)

午後 二十六日 (日) 二十六日 (日) 二十六日 (日)

午後 二十七日 (月) 二十七日 (月) 二十七日 (月)

午後 二十八日 (火) 二十八日 (火) 二十八日 (火)

午後 二十九日 (水) 二十九日 (水) 二十九日 (水)

午後 三十日 (木) 三十日 (木) 三十日 (木)

午後 三十一日 (金) 三十一日 (金) 三十一日 (金)

午後 十二月一日 (土) 十二月一日 (土) 十二月一日 (土)

去る十月十六日開催の常務理事会に於て各種専門委員並びに墓地問題等国会対策委員が次の通り決定、十六日付を以て各氏宛に委嘱状が発送された。

茲に全仏の人数は全く調い、愈々活潑なる活動態勢に入り、追つて各種専門委員会が開催される見込である。

全仏の専門委員会は滿来の五委員会を四委員会に引締め、新事態に即して新たに墓地問題等国会対策委員会が設置された。即ち、

①宗教法人対外委員会 ②組織教化委員会 ③社会問題委員会 ④国際委員会の四委員会である。

# 有識経験者を結集

## 各種専門委員 委嘱さる

### 1 宗教法人対外委員会

当委員会の課題は、墓地問題、解放農地補償問題、下水道、税金其の他受益問題等を検討、対処する。委員は次の各氏二十名である。(敬称略、順不同)

今井祐中、小笠原義雄、小野塚潤澄、長野隆法、竹中素仁、谷北俊竜、能登有光、井上恵行、小松浄祐、阿部諒童、清野学道、北之内真竜、木村智広、鈴木敏範、木全大孝、三浦清之、草名俊清、中村真道、横山英鳳、小林大隆

### 2 組織教化委員会

教学教化一般を課題とし仏教運動の進展を期するため総合的、研究協議が行われる部門として一般、幼児教化、青少年問題、婦人会運動、マスコミ対策、社会福祉事業等に分けられ、夫々小委員会を設けることになっている。

委員(四十九名、順不同)

坂東環城、川田聖見、雲藤義道、熊野竜夫、遠藤靈羊、白川良純、椎谷健、海野義雄、石橋益恵、猪俣興一、仲田順和、丸井玄信、小池寛淳、塩入亮達、羽場慈温、五島宗宣、荻野正順、笠原秀

### 3 社会問題委員会

当委員会の課題は、社会、平和、政治、経済等の諸問題を検討、仏教者として取るべき態度を打出してゆく事を目指すものである。

委員(二十三名、順不同)

伊藤道機、浜田本悠、友松円諦、大野信三、田中車一郎、山本洋一、松本徳明、丸山行遠、増永靈鳳、小松雄道、安藤寛、齋藤栄三郎、徳沢竜潭、堤敏郎、米山久、三原信一、壬生照順、吉田敬直、為郷恒淳、西義雄、久保田正文、久保保太清、関岡賢一

### 4 国際委員会

国際的交流が盛んであり、諸外国との親善促進と相互理解に寄与する為め及び仏教国諸問題に対処するために存置されたものである。

委員(十九名、順不同)

中山理々、永田正義、岡野貴美子、松本徳明、松浦竜鏡、藤井真水、小谷淡雲、赤松常子、桜井栄章、木村日紀、村野宣忠、石坂晃一、広瀬寿美子、菅原恵慶、J・R、プリントクリ、五島行宣、花山勝友、壬生台舞、小谷徳水

### 5 墓地問題等国会対策委員会

現下訴訟中の墓地問題は、既に最終弁論を終え、結審を目睫に控えた段階にあるが、今後更に国会議員との懇談、その他各般に亘る国会の対策に対処するため、その重要性に鑑み、今次新たに設置されたのである。

委員(二〇名、順不同)

阿部竜伝、小松浄祐、竹中素仁、長野隆法、谷北俊竜、佐野前光、渋谷亮泰、源玄英、小沢照禧、小野塚潤澄、山本芳遵、野村宗春、本多清敏、北之内真竜、柳下隆侃、熊野竜夫、杉本良智、稲沢浄光、山中浩文、林静寛

☆ ★ ☆

# 全国農地犠牲者総決起大会

## 暴風雨をついて三万の同志結集

十月十日午前十一時より偶々来襲した第二十四号台風の暴風雨をついて全国農地解放者同盟主催、全日仏協議のもと農地犠牲者総決起大会が、日比谷公園野外大音楽堂に於て、前日来上京していた会衆等約三万名が結集し、予定の如く盛大に挙行され、所定の計画に従つて政府当局者に対し団体陳情が行われた。

翌十一日午前十時より砂防会館に於て陳情結果報告会が開催され、三十七年度予算に補償実現の目的を貫徹するためには、各陳情班の報告では甚だ不満足であるとの意見が有力となり、報告大会の自発的緊急決議として政府与党の最高責任者である池田総理から、本問題解決に対する真意と方針を大きく必要がある事を決定した。その後会談が不調になるや実力行使に入り形勢は非常に険悪化した。この非常事態の取捨のため大野副総裁が綱島会長の斡旋により代表十名が大平官房長官、小平総務長官陪席して池田総理大臣に陳情した。回答の要旨を左に掲載するが、本運動開始以来、正式交渉団に対し総理、総裁として直接回答したのは始めてのことであり、回答内容については、非常に含蓄ある好意的なものであった。なお代表団の陳情直後、綱島農地問題調査会長は、池田総理に対し、党内の問題について次の通り報告し、了承を得た。

綱島農地問題調査会長報告要旨  
本日昼頃、院内総裁室に於て大野

副総裁、前尾幹事長、副幹事長等の党執行部と本問題の取扱ひに関する打合せをなし、席上綱島会長より調査会の決議等について詳細説明した所、全員これを了承し、次期通常国会に於て是非解決することに意見が一致しましたから、この席で総裁に御報告申し上げます。

### 池田総理大臣の回答要旨

私はこの問題については早くから話をきいて知つてゐるし、私の身近な者も農地解放者が相当いるのでよくその事情は判つてゐる。地主の諸君と保守政党とは長い間特別の関係もあるので政府としても何とか考へねばならないとして法律を以て内閣に調査会を設けて現在研究中である。政府としてはこの調査会の答申を俟つて処置をするのが当然であるが、本日大平官房長官から報告をきいた所による、事態は非常に緊迫しているように感じているので、私もこの緊迫した事態に対処すべく緊急に善処したいと考えてゐる。

### 宣 言

冷酷無算なる農地改革のため、父祖代々汗と脂によつて築かれた貴重な農地財産を一朝にして失ふ悲憤と困窮の明け暮れに呻吟すること茲に十有余年、吾等農地解放犠牲者は、去る昭和三十年一月三十日全国組織の結成以来、政府並に国会に、速かなる補正の措置を講ずるよう熱烈な要請を反覆して

きたのである。政府並に自民党は、本問題の重要性に思いを致し、先には党内に農地問題調査会を設けて解決の促進を計り、又昨年六月にはあの混沌たる政局にも拘わらず、永年吾等が待望せる調査会設置法を通過せしめた。調査会も亦充足以來既に六回の審議を終り、目下専門委員会において、実態調査の具体的方法を検討中であり、急速に問題の核心に触れた本格的審議の段階に至りつつあることは、誠に感謝にたえない所である。吾等は、本問題が最終段階に突入しつつある現状を重視し、益々同志の団結を固くして、組織の拡大強化に努力すると共に、三十七年度に補償予算の獲得を実現し、以つて目的貫徹に邁進せんことを誓ふものである。

昭和三十六年十月十日  
全国農地犠牲者総決起大会

### 決 議

- 一、吾等は、社会保障でなく、あくまでも対物補償を要求する
- 二、吾等は、農地被買収者問題調査会が、本年十一月末までに政府に対し、答申書を提出されることを要請する
- 三、政府並に自民党は、速かに調査会より答申書の提出を求め、次期通常国会に於いて、具体的な解決の計上措置を講ぜられ、係予算の計上措置を講ぜられ、これを強く要望する
- 四、政府は、本問題処理に当り、既に十年の長い間、公然たる請求運動を続けてきた同盟正会員に対しては、請求順位の秩序を保ち、あくまでも最優先処理をなすべき法的措置を講ずることを強く要請する

右決議する  
昭和三十六年十月十日  
全国農地犠牲者総決起大会

# 大映映画「釈迦」に対し、嚴重に抗議

今回大映株式会社において、日本最初の七〇ミリ天然色映画「釈迦」が製作されるというのを聞いてわれわれ仏教徒は大きな喜びと期待をもつてその封切り上映の日を待ち望んでいた。然るにわれわれのそのよこびと期待は、まだそれが封切り上映されないうちに完全に裏切られ、しかも仏教徒にとつて許すべからざる重大なる問題を惹起した内容である。即ち、そのシナリオの内容には釈尊の太子時代の妃「ヤシヨダラ」がダイバダッタに犯され且つ妃はそれを恥じて自害したといふものである。僧俗を問わず、いやしくも仏教に関心を持つ人々は信仰の中心としてゐる程の人々は愕然とした。あるものは失望落胆し又あるものは衷心から激怒した。「何という猥褻な脚色であり、仏教への冒瀆であるか」と心ある人々は、自己に対する辱めと同様に憤激した。仏教徒を侮辱するも甚だしい。これは、たとえそれが娯楽映画であると、劇映画であるかを問ふ必要はない。世界六億仏教徒の断じて許すことのない出来るところである。

特に、東南アジア各国のような純粋なる仏教信仰民族の憤りや悲しみはどうかであるか。それは信仰問題であると同時に国際信義の問題でもある。このような批難が国内の至る所から起つた。はたせる所からインド、ビルマ、セイロン、カンボジア、タイ、ラオス等の在日各国大使たちは、末だかつてないといわれる共同抗議申入れを外務省に対し、嚴重に外務省並びに大映当局宛抗議文が寄せられた。

全仏当局は之に鑑み、直ちに十月十六日緊急に京常務理事会を召集してこれら対策を協議し、専門委員会に諮問することになり、組織、国際合同委員会はこれに対し「直ちに特別実行委員会を作り大映永田社長に対し修正乃至カットの要求、抗議をすべきである」と、二十四日常務理事会に答申した。在京常務理事会は引き続き二十六日特別実行委員会を選任し二十七日大映に永田社長を訪れ、史実を歪曲してゐる数ヶ所に対し嚴重抗議を申入れると同時に修正乃至カット或は上映延期の要請をなした。

### あとがき

○釈迦の問題——東西両本願寺を始め諸団体各方面より善処方につき嚴重なる抗議要請あり。仏教大學、諸団体より大映に対する抗議あり。

○正史、事実ではなく、映画はフィクションだから良いのだと云う見解は、果してこの場合通用するかが問題なのである。

○フィクションなるが故に、これも歴史性をゆがめ傷つけてよいものであるか。一番の難点がここにある。

○重大なる国際問題か？であり、日本人の野蛮性、歴史に対する無智、無学を指摘、非難される結果を招くこと自明である。善処方を要請する。

○世界仏教徒会議にそのむ代表者各位の御健祥を祈る。

(T・K生)